

第4節 健やかで心豊かに暮らせるまち

2 学校教育

～子どもたちの豊かな人間性や生きる力をはぐくめる教育が実現しているまち

<A 基本計画の目標>

学校・家庭・地域が連携して、児童生徒が安心して学べる地域に開かれた安全な学校づくりを進めます。
 児童生徒に基礎・基本の確実な定着と自ら学ぶ意欲をはぐくむ教育を充実します。
 鎌倉の特徴である自然環境や歴史的遺産、文化・芸術にふれる教育を推進し、児童生徒の豊かな人間性をはぐくみます。
 児童生徒に社会性・道徳性を身につけさせ、ともに生きる社会づくりの大切さや健やかな心と体をはぐくみます。
 障害のある児童生徒や教育的支援が必要な児童生徒のニーズに応じた、きめ細かな教育を充実します。
 学校施設については、将来の教育環境の変化に対応し、児童生徒が健康で安全な学校生活を送る場として、また、地域における防災や生涯学習の拠点として整備を進めます。

<B 目標指標：市民意識調査による市民の満足度>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H22	H23	H24	H25	対前年度
市民満足度	サブタイトルにあるまちの実現状況について、市民が実感している割合	38.5 %	40.4 %	43.8 %	44.4 %	43.8 %	↓

<C 目標達成に向けた25年度の実績と自己評価>

※この分野の目標達成のために取組んできた事業の実績(前年度事業及び実施計画事業を中心にコメント)

【教育部】	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、大船中学校改築工事に係る基本・実施設計を行いました。また、既存校舎の解体工事を行いました。 ・平成26年度施工予定の西鎌倉小学校北棟トイレ改修工事設計を行いました。 ・小中学校全25校の非構造部材の耐震状況について点検・調査を行いました。 ・西鎌倉小学校及び大船小学校の体育館に係る吊天井撤去等耐震対策修繕を行いました。 	◎
<p>①児童生徒の安全対策 市内小学校新一年生に防犯ブザーを配付しました。</p> <p>②少人数学級の充実 小学校1・2年生を対象に少人数学級編成(35人以下学級)を実施しました。 小学校非常勤講師(市費)を8校8名雇用しました。</p> <p>③学校図書館の充実 学校図書館専門員を小学校16校に配置しました。 読書活動推進員を中学校9校に派遣しました。</p> <p>④特別支援学級の充実 西鎌倉小学校及び第二中学校特別支援学級を開設するとともに、第一中学校及び手広中学校特別支援学級の平成26年度開設に向けた準備を行いました。 また、今泉小学校情緒障害通級指導教室の開設に向けた準備を行いました。</p> <p>⑤特別支援教育の推進 特別支援学級補助員(1名)、学級介助員(31名)、スクールアシスタント(10名)、学級支援員(9,322時間)、日本語指導協力者(127回)を配置するとともに、臨床心理士の資格を有する特別支援教育巡回指導員3名による相談・支援を実施しました。</p>	◎
<p>欠席状況調査を継続的に行うことにより、不登校の早期発見、早期対応が図られ、平成25年度も不登校児童生徒数は減少傾向となりました。教育相談員、スクールソーシャルワーカーが学校や関連機関と連携し、問題の解決や支援にあたることができました。メンタルフレンドの活動は鎌倉女子大との連携により、若い世代が支援の担い手となることができました。個別支援から教育支援教室につながった生徒や教育支援教室から学校に復帰した生徒もあり、丁寧な対応で支援の充実が図られました。</p>	◎

前年度当初目標に対し、◎=80%以上○=50%以上△=30%以上×=30%未満

<D 8年間(平成18～25年度まで)の取組の評価>

【教育部】

児童生徒に基礎・基本の定着と自ら学ぶ意欲を育む教育、また、児童生徒の豊かな人間性・健やかな心と体を育む教育に努めてきましたが、市民の満足度の目標値にはまだ到達していません。「めざすべきまちの姿＝子どもたちの豊かな人間性や生きる力をはぐくめる教育が実現しているまち」に対する市民の満足度を高めるためには、引き続き教育内容の充実と教育条件の整備に取り組み、子どもたちの「生きる力」を育む教育の向上を市民が実感できる施策を行う必要があります。

<E 25年度までの未達成事業の課題・問題点など>

【教育部】

特別支援教育充実に向けた取組を進める上で、特別支援学級全校設置のための施設整備も必要となりますが、少人数学級編制や少人数指導の実施に伴い、普通教室の必要性も高まっていることから、教室の確保が困難な状況となっています。また、特別支援学級の整備については通常行われている学校の教育活動に支障のないよう、地域や学校、関連各課と綿密な調整が必要です。

また、さらなる教育内容の充実や学習意欲の向上に向け、きめ細かな指導及び支援を行うため、スクールアシスタントの小学校全校への配置や学級支援員の派遣など人的支援の更なる充実を図る必要があります。

教育相談員、スクールソーシャルワーカー、心のふれあい相談員等の配置時間の増加をめざします。教育センターの施設と教育支援教室が分散していることによる連携不足の課題を解消するために、教育センター機能を一元的に管理できる施設の早急な確保について検討します。

<F この分野の取組が含まれる第3期基本計画の施策の方針>

【教育部】

分野名	施策の方針名
学校教育	学校施設の整備
	教育内容・教育環境の充実

<G F欄の施策の方針における今後の展開(取組方針)>

【教育部】

施策の方針名	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度末までに大船中学校改築事業を完了し、耐震化率100%をめざします。 平成25年度に実施した非構造部材の耐震状況点検・調査結果に基づき、耐震対策を要すると判定されたものについて、改修工事又は修繕を実施します。 未改修の学校トイレについて、順次、計画的に改修工事を進めます。 普通・特別教室への冷房設備設置に係る事業手法等について検討します。
学校施設の整備	
施策の方針名	<p>子どもたちの「生きる力」の育成を支える「確かな学力」「豊かな人間性」「健康な体力」を育む教育の充実を目指し、教職員の指導力の向上を図りつつ個に応じたきめ細かな教育を進めます。</p> <p>また、学校が、家庭や地域と協力して、子どもが安心して学べる地域に開かれた安全な学校づくりに取り組んでいくとともに、障害のあるなしに関わらず、特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握に努め、個に応じた教育が行えるよう、特別支援教育充実に向けた取組を進めます。</p>
教育内容・教育環境の充実	<p>教育相談機能の充実、スクールソーシャルワーカーの活用、関係機関とのネットワークの構築等により、不登校児童生徒への教育的支援やいじめ問題への対応等、多様な課題の解決に取り組んでいきます。</p>

<H 実績指標：事業ごとの進捗を示す代表的な指標>

目標指標	目標指標の定義	当初値	H22	H23	H24	H25	H22年度 目標値	H27年度 目標値
学校施設の耐震化率(+)	すべての学校施設のうち耐震基準に適合している建物の割合	72.4 %	96.2 %	96.2 %	96.2 %	99.0 %	81 %	100 %
学校教育活動にかかわった市民の割合(+)	ここ1年間に、市立小中学校で行われた教育活動(学校行事に参加、教科等の活動や部活動での指導、体験学習の受け入れ等)にかかわった市民の割合	14.0 %	17 %	18.5 %	17.2 %	17.9 %	17 %	20 %

<I 事業コスト総額>

分野別事業費		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
施策コスト	決算値 (A)	2,254,830千円	2,088,930千円	3,067,961千円	1,543,495千円	1,692,692千円	1,763,674千円		
	(国・県)	138,236千円	542,605千円	522,260千円	70,222千円	26,929千円	20,967千円		
	(負担金等)	0千円	0千円	0千円	1千円	542千円	675千円		
	(一般財源)	2,116,594千円	1,546,325千円	2,545,701千円	1,473,272千円	1,665,221千円	1,742,032千円		
	人員配置数	40.0人	41.0人	41.0人	40.8人	41.6人	42.0人		
	人件費 (B)	379,676千円	385,272千円	366,817千円	360,858千円	336,672千円	326,387千円		
	総事業費(A+B)	2,634,506千円	2,474,202千円	3,434,778千円	1,904,353千円	2,029,364千円	2,090,061千円		
	対前年比		93.9%	138.8%	55.4%	106.6%	103.0%		

鎌倉市民評価委員会の評価

◎ この分野の8年間の取組の進捗状況・取組のあり方に関する意見

- ・鎌倉市の学校教育は専門家との連携等、かなり先進的に進められてきていると思われる。一般的な評価も高いと聞くが、私学に進む子どもが多いという点も今後留意していく必要がある。
- ・小学校1・2年生を対象に少人数学級編成(35人以下学級)を実施した。特別支援学級補助員、学級介助員、スクールアシスタント、学級支援員、日本語指導協力者を配置したことなど、着実に進められており、評価できる内容である。
- ・この分野は教育の内容の充実をイメージするが、施策のほとんどが学校環境の充実と整備である。その点では耐震化も含め十分努力していたと評価できる。耐震化率が99.0%まで達成し、学校関係者及び地域住民に安全・安心感をもたらしている。しかし、依然としてインフラ整備主体の事業と受け取れる。
- ・学校教育の分野も課題が多く、何れも軽重をつけ難い。多くの関係者が尽力されているが、その成果が現れるまでに時間を要し、かつ、合理的評価の難しさがある。
- ・人的支援も拡大しており今後の施策に期待する。

きわめて優れていた：◎
 十分であった：○
 不十分であった：△

○

◎ 第3期基本計画に向けたこの分野に関する意見

- ・教育には抱える社会的問題(不登校、いじめ等)も多く、市だけで解決できない要素も多々あるので、県、国との連携の中で進めていってほしい。
- ・学校内でそれぞれの立場の人間が孤立することなく、意思疎通して欲しい。問題行動については第三者のサポートが必要である。
- ・教育相談員、スクールソーシャルワーカーによる学校や関連機関との連携など、今後も、問題の解決や支援を進めるべきである。また、教育の専門家による相互の問題意識の共有や情報交流も必要である。合わせて、教員側のメンタル相談も行う必要がある。
- ・特別支援教育への支援は未だ不十分である。少人数制や支援に必要な専門家の積極的な投入など、鎌倉市の手厚さを如何に実現できるかが期待される。
- ・必要な学力や体力、道徳教育を確実なものに育成する。
- ・自分の身は自分で守ることができる児童生徒を育成する。
- ・行政だけで行える事業には限界があるため、PTAや教育委員会、その他の専門家との協働による事業をコーディネートする事業展開を行って頂きたい

◎ この分野の指標に関する意見

- ・満足度の当初値38.5%が低いので目標値を50%及び60%に引き上げたが、実績は平成25年度で43.8%と低調である。これには「わからない」などと回答した人が37.6%いる。原因は設問時の情報提供不足と思われる。
- ・子育てを終わった人たちが今の教育の満足度に回答するとしたら何を基準とするのかを考察し、指標を検討して頂きたい。
- ・耐震化への評価と教育活動への参加率は上昇しており、教育への関心の高まりは予測できる。しかし、耐震化はほぼ終了しており、今後の指標とする必要は無い。また、インフラに関する指標よりも、本来の教育内容と、教育事業が行われた結果(不登校児童の減少など)を指標とすべきである。子ども達の豊かな学びを今後も保証して欲しいものである。
- ・学校教育の活動に関わる市民の割合が低いので、父兄や地域市民がもっと関わる必要を感じる。
- ・欠席状況調査の継続的実施、不登校の早期発見、早期対応が図られ、不登校児童生徒数は減少傾向となったことなどは良い取組であると思う。

◎ この分野に関する総括意見

- ・最近の中高年及び若者の犯罪事件に接するたびに、幼児期、学齢期の教育に問題がなかったか自問することが多い。ライフステージのなかで教育がどういう役割を果たすべきか今一度振り返ってみる必要がある。
- ・特別支援学級の設置について、少人数学級編制や少人数指導の実施に伴い、教室の確保が困難な状況にあること等が懸念される。
- ・教育環境の整備に留まらず、鎌倉市の独創的な教育、鎌倉市の歴史環境を積極的に守り継承できる子どもの成長発達を進める教育の充実を期待している。
- ・学校教育については、「しつけ」など従来は家庭内教育で行うべき内容まで学校に求められている。どのようにこれらの教育を行っていくのか？教員だけで行う事が困難な事については、PTAや教育委員会と連携し、それぞれの役割を確認し、分担していく必要があると思われる。
- ・親子、先生という固定された関係だけでなく、世代を超えて学校現場に関わることができる視野も広がるかもしれない。女子大との連携などが良い例となって今後につながることを期待する。
- ・生きる力と他人を思いやる心を養うことが必要である。確かな学力・豊かな人間性・健康な体力がそれを支える。
- ・教育関係者間の意見交換・情報の共有化が一層求められる。私学とも情報の交換が望まれる